

令和 3 年度（第42期）事業報告

定款第55条の規定に基づき、令和 3 年度（第42期）の事業について、別紙 1 および別紙 2 のとおり報告いたします。

(別紙1)

令和4年5月11日

一般社団法人 エネルギー・資源学会
令和3年度事業報告書
(自 令和3年4月1日 至 令和4年3月31日)

1. はじめに

令和3年度も新型コロナウイルス感染は終息せず、見学会などの一部の学会活動が制約を受けたが、感染対策も2年目に入り、オンラインでの会議や行事にも慣れが見られるようになった。第6次のエネルギー基本計画が策定され、学会内でもカーボンニュートラルなどのエネルギーに関する諸課題について活発な意見交換が行われた。年明けの2月末からロシアのウクライナへの侵攻が始まり、改めてエネルギーセキュリティの重要性が認識されるようになった。

2. 企画関係事業実績

(1) 研究発表会

第40回エネルギー・資源学会研究発表会(以下、研究発表会)を8月2日・3日の2日にわたり、オンラインで開催した。

(2) エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス

第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス(以下、コンファレンス)を1月25日・26日の2日にわたり、オンラインで開催した。

(3) 特別講演会

研究発表会・コンファレンス開催に合わせて、それぞれ1件ずつ特別講演を実施した。

(4) 研究プロジェクト

研究プロジェクト「エネルギーの脱炭素化に関する調査研究」の第一期(後半)の調査・研究を実施した。第二期以降、プロジェクトの名称を「エネルギーのカーボンニュートラル化に関する調査研究」と変更することになった。

(5) エネルギー政策懇話会

エネルギー政策懇話会は、概ね予定通りの日程で年6回、開催した。会終了後に行っていた交流会は、懇話会がオンライン開催となったため、今年度も実施を見送った。

(6) 研究部会・ワークショップ

サマーワークショップ2021を9月13日に開催した。

(7) 研究委員会

① 2050年に向けた日本のエネルギー需給

委員会の議論を通じて企画したオンライン・シンポジウムを5月27日と9月27日に開催した。また、研究発表会とコンファレンスで企画セッションを設けた。

② 家庭部門のCO2 排出統計調査利用研究会

第二フェーズを12月21日に終了し、1月22日から第三フェーズを開始した。また、オンライン・シンポジウムを7月1日に実施すると共に、研究発表会とコンファレンスで企画セッションを設けた。

(8) 講習会・講座

オンラインで11月22日に講習会を開催した。

(9) 研究会・見学会

12月16日に現地見学会を兼ねた研究会を開催した。

(10) エネルギー施設の災害・安全対策研究会

2月21日・22日に福島第一原子力発電所等の見学会を予定していたが、コロナウィルス感染拡大により次年度に延期された。

(11) 共催行事への対応

他の団体との共催行事を3回、開催した。

3. 編集関係事業実績

(1) 会誌「エネルギー・資源」の刊行

年6回奇数月の10日に会誌を刊行した。各号の特集は以下のとおり。

2021年5月号 「2050年のエネルギー需給」

7月号 「温暖化対策と電力系統安定化に寄与する水力発電」

9月号 「アンモニア合成の新展開」

11月号 「エネルギー分野におけるデジタル技術活用①(供給サイド)」

2022年1月号 「エネルギー分野におけるデジタル技術活用②(需要サイド)」

3月号 「持続可能なまちづくり」

(2) 投稿・採択された論文件数

令和3年度は、研究論文50件(うち英文2件)、技術論文9件、展望・解説1件の投稿があった。また、前年度からの査読分を含めて研究論文39件(うち英文3件)、技術論文4件、展望・解説1件が採択され、会誌に論文要旨が、J-STAGE上の「エネルギー・資源学会論文誌」に論文本文が掲載された。

4. 総務関係事業実績

(1) 表彰

第10回学会貢献賞1件、第9回茅賞1件、第9回学生発表賞4件、第17回論文賞1件の表彰を研究発表会で行う予定であったが、研究発表会がオンライン開催に変更されたため、個別に受賞者に表彰状等を授与した。

(2) 経理関係(特定資産の取崩・積み増し等)

研究プロジェクト「エネルギーの脱炭素化に関する調査研究」において、会費収入から費用を控除し、年度末に残った金額のうち、1,883千円を研究プロジェクト最終報告書作成等準備金資産として特定資産(指定正味財産)に計上した。学生発表

賞表彰準備金資産から 49,500 円を取崩し、表彰費用と 1 年間の会費減免原資に使用した。来年度の円滑な事業運営のため、預金 5,500 千円を法人会計から一般事業会計に振り替えた。

5. 主な会議開催実績

(1) 社員総会

令和 3 年度（第 42 期）定時社員総会を令和 3 年 6 月 10 日に開催し、以下の議案が決議された。

項目	内容
日時	令和 3 年 6 月 10 日（木）13 時 00 分～13 時 30 分
場所	大阪科学技術センター 4 階 403 会議室
出席者	104 名（内委任状 44 名、書面による議決権行使 51 名）
議事	(1) 令和 2 年度（第 41 期）事業報告書承認（報告事項） (2) 令和 2 年度（第 41 期）決算報告書承認（決議事項） (3) 令和 3 年度（第 42 期）事業計画・収支予算承認（報告事項） (4) 理事 13 名選任（決議事項） (5) 監事 2 名選任（決議事項）
議長	浅野 浩志

(2) 理事会

定例理事会を 3 回（オンライン開催）、臨時理事会を 1 回、開催し、以下の議事が承認された。

（第 1 回理事会）

項目	内容
日時	令和 3 年 5 月 11 日（火）15 時～16 時 23 分
場所	オンライン開催
出席者	理事 11 名、監事 1 名
議事	(1) 会員の入会承認・退会報告の件 (2) 令和 2 年度事業報告案および決算案の承認について (3) 令和 3 年度定時社員総会の目的である事項、日時及び場所について (4) 表彰規程の制定について (5) 慶弔・見舞金規程の承認について *この他に報告事項 4 件
議長	浅野 浩志

(第2回理事会)

項目	内容
日時	令和3年10月19日(火) 10時00分~11時30分
場所	オンライン開催
出席者	理事10名、監事2名
議事	(1) 会員の入会承認・退会報告の件 (2) 令和4年度定時社員総会の開催日時の件 (3) 第38回エネルギー・経済・環境コンファレンス特別講演の件 (4) 「謝金・旅費・原稿料にかかる規程」の改定 (5) 業務処理にかかる諸規程の制定について (6) 職員の勤務条件にかかる規程の制定・改定について *この他に報告事項3件
議長	手塚 哲央

(第3回理事会)

項目	内容
日時	令和4年3月18日(金) 13時~14時30分
場所	オンライン開催
出席者	理事10名、監事1名
議事	(1) 会員の入会承認・退会報告の件 (2) 令和3年度事業計画(案)・収支予算(案)について (3) 退職給付引当資産取崩による退職金の支給について (4) 第11回学会賞・学会貢献賞他の選考について (5) 第41回研究発表会特別講演の件 (6) 来年度の行事・会議開催形態について *この他に報告事項5件
議長	手塚 哲央

(臨時理事会)

項目	内容
日時	令和3年6月10日(木) 13時37分~13時47分
場所	大阪科学技術センター 4階 403会議室
出席者	理事10名、監事1名
議事	(1) 代表理事選定の件 (2) 業務執行理事選定の件 (3) 名誉会員選任の件 *この他に報告事項2件
議長	手塚 哲央

(3) 企画実行委員会

企画実行委員会では、会議をオンラインで5回（5月17日、8月24日、10月14日、12月7日、2月17日）、開催した。

(4) 編集実行委員会

編集実行委員会では、会議をオンラインで6回（4月13日、6月15日、8月17日、10月12日、12月13日、2月16日）、開催した。

(5) 総務委員会

総務委員会では、会議をオンラインで3回（4月22日、9月15日、2月24日）、開催した。

6. その他の実施施策等

(1) ウェブサイトの継続的な改良

行事申込みサイトへのアクセス改良、規程類のページの新設、表彰のページの改良などを行った。

(2) 学会のデジタル改革の推進

オンライン会議、発表会の積極的な活用を進めると共に、電子化された経理システムを活用し収支情報等の定量的な提供を進めた。

(3) 規程類の整備とガバナンスの充実

規程7本を制改定するとともに、業務の決裁権限等を事務処理規程他に定めた。

(4) 新型コロナウイルス対策の継続

行事・会議を原則オンラインで開催すると共に、蔓延防止策が発令された場合においては、現地見学会を延期した。

(参考) 会員数の推移

種別	前期末 (令和3年3月31日)	今期末 (令和4年3月31日)	増減
正会員	913名	898名	△15名
学生会員	84名	101名	+17名
特別会員	107社・団体 (131口)	109社・団体 (132口)	+2社・団体 (+1口)

以上

(別紙2)

令和3年度(第42期)事業報告書 附属明細書

1. 企画関係

1-1 研究発表会

第40回エネルギー・資源学会研究発表会 (オンライン開催)

[日時] 令和3年8月2日(月)～3日(火)
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)
[発表件数] 83件
[参加者] 8月2日 172名, 3日 173名

1-2 コンファレンス

第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス (オンライン開催)

[日時] 令和4年1月25日(火)～26日(水)
[共催] 電力中央研究所、日本エネルギー経済研究所、エネルギー総合工学研究所、地球環境産業技術研究機構、
コージェネレーション・エネルギー高度利用センター
[後援] 新エネルギー・産業技術総合開発機構
[協賛] 化学工学会、日本原子力学会、日本エネルギー学会、(株)三菱総合研究所、電気学会、日本機械学会、
日本シミュレーション学会、公益事業学会、日本エレクトロロヒートセンター
[発表時間] 1件20分(講演15分、討論5分)
[発表件数] 128件
[参加者] 25日 220名, 26日 245名

1-3 特別講演会

第40回エネルギー・資源学会研究発表会特別講演会 (オンライン開催)

[日時] 令和3年8月2日(月) 15:30～16:40
[次第] *会長挨拶
*特別講演
「グリーンイノベーション戦略-成長戦略に向けたイノベーション-」

地球環境産業技術研究機構 山地 憲治

[参加者] 102名
[司会] 松橋 隆治(東京大学)

第38回エネルギーシステム・経済・環境コンファレンス特別講演会

[日時] 令和4年1月25日(火) 15:50～17:00
[次第] *会長挨拶
*特別講演
「IPCC WG1 第6次評価報告書(自然科学的根拠)の概要」

国立環境研究所 江守 正多

[参加者] 102名
[司会] 松橋 隆治(東京大学)

1-4 研究プロジェクト

研究プロジェクト「エネルギーの脱炭素化に関する調査研究」

*第1期(後半) 令和3年4月1日～令和4年3月31日

*調査委員会を年間8回(うち施設見学1回、講演会3回、学会行事との合同開催4回)実施した。

委員長 : 松橋 隆治(東京大学)
副委員長 : 加藤 丈佳(名古屋大学), 岩田 章裕(関西電力(株)), 根田 徳大(東京ガス(株))
アドバイザー : 浅野 浩志(電力中央研究所, 岐阜大学, 東京工業大学), 下田 吉之(大阪大学)
委員 : 17名

1-5 懇話会

第1回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日時] 令和3年6月10日(木) 14:50～17:00
[参加者] 45名
[テーマ] 「スマートシティ構築に向けた蓄電池の開発・利用の展望」
[話題提供者] 1. 池谷 知彦(電力中央研究所)
2. 太田 豊(大阪大学)
[司会] 小杉 隆信(立命館大学), 長谷川友安(関西電力(株))

第2回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日 時] 令和3年7月29日(木) 14:50~17:00
[参加者] 59名
[テーマ] 「カーボンプライシング論の行方」
[話題提供者] 1. 前田 章(東京大学)
2. 工藤 拓毅(日本エネルギー経済研究所)
[司 会] 松橋 隆治(東京大学)

第3回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日 時] 令和3年9月17日(金) 14:50~17:00
[参加者] 52名
[テーマ] 「カーボンニュートラルに向けたPower to Gasと水素キャリアへの期待と課題」
[話題提供者] 1. 柴田 善朗(日本エネルギー経済研究所)
2. 辻村 拓(産業技術総合研究所)
[司 会] 加藤 丈佳(名古屋大学), 田村 守淑(東邦ガス(株))

第4回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日 時] 令和3年12月21日(火) 14:50~17:00
[参加者] 37名
[テーマ] 「国内外におけるカーボンクレジット活用の状況と今後」
[話題提供者] 1. 梶川 文博(経済産業省)
2. 本郷 尚((株)三井物産戦略研究所)
[司 会] 工藤 拓毅(日本エネルギー経済研究所), 伊野 慎二((株)構造計画研究所)

第5回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日 時] 令和4年1月11日(火) 14:50~17:00
[参加者] 33名
[テーマ] 「これからのガス事業~2030年, 50年に向けて~」
[話題提供者] 1. 野田 太一(経済産業省 資源エネルギー庁)
2. 坂梨 興(大阪ガス(株))
[司 会] 秋元 圭吾(地球環境産業技術研究機構), 西田 亮一(大阪ガス(株))

第6回エネルギー政策懇話会 (オンライン開催)

[日 時] 令和4年3月3日(木) 14:50~17:00
[参加者] 48名
[テーマ] 「COP26からエネルギー政策・気候変動政策への示唆」
[話題提供者] 1. 川口 征洋(経済産業省)
2. 水谷 好洋(環境省)
[司 会] 松橋 隆治(東京大学), 宮崎 悠((株)NTTファシリティーズ)

1-6 研究部会

サマーワークショップ2021 (オンライン開催)

[主 催] エネルギー・資源学会
[協 賛] 環境経済・政策学会, 省エネルギーセンター, 電気学会東京支部,
日本エネルギー学会, 空気調和・衛生工学会,
日本オペレーションズ・リサーチ学会
[日 時] 令和3年9月13日(月) 13:00~17:00
[参加者] 31名
[テーマ] 「ネット・ゼロの生活を描くー脱炭素は私達の生活のなにをどこまで変えるのか?ー」
[講 演] 講演「脱炭素で進む交通システムの新技術」
講師 大野 嘉久(日本サステナブル・エナジー(株))
講演「脱炭素が変える私たちの食の姿」
講師 河口 真理子(不二製油グループ本社(株), 立教大学)
講演「フューチャー・デザイン 将来世代を考慮した意思決定と社会変革に向けて」
講師 原 圭史郎(大阪大学)
[代表幹事] 藤野 純一(地球環境戦略研究機関)
[幹 事] 井上 智弘(エネルギー総合工学研究所), 井上 麻衣((株)リバネス),
上道 茜(早稲田大学), 小澤 暁人(産業技術総合研究所),
白木 裕斗(滋賀県立大学), 杉山 昌広(東京大学),
鈴木 研悟(筑波大学), 永井 雄宇(電力中央研究所),
藤澤 星((株)フジサワ), 古林 敬顕(秋田大学),
渡邊 裕美子((株)Loop)
[顧 問] 松橋 隆治(東京大学)

1-7 研究委員会

「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会2021年度第1回シンポジウム（第12回ESIシンポジウム）			
（オンライン開催）			
[主 催]	エネルギー・資源学会「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会 東京大学生産技術研究所エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門（ESI）		
[共 催]	東京大学 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス（APET） 東京大学 エネルギー・資源フロンティアセンター（FR CER） 東京大学 生産技術研究所 持続型エネルギー・材料統合研究センター（IRCSEM） 東京大学 未来ビジョン研究センター（IFI）		
[日 時]	令和3年5月27日（木）13：00～17：50		
[参加者]	295名		
[テーマ]	「2050年のエネルギーと社会：何が難しいのか」		
[次 第]	趣旨説明と前回シンポジウムの振り返り	東京大学	荻本 和彦
	<第1部>		
	1. 再生可能エネルギー導入の難しさー2050年再エネ導入に関する受容性重視シナリオー	電力中央研究所 太平洋セメント(株)	朝野 賢司 上野 直樹
	2. 2050年カーボンニュートラルへ向けた太平洋セメントの長期ビジョン	東京大学	岩船 由美子
	3. 民生部門カーボンニュートラルへの壁：ロックイン問題	火力原子力発電技術協会	中澤 治久
	4. 短期間から長期間、需給バランス維持の難しさ	石油エネルギー技術センター	二宮 貴之
	5. 水素ステーションに係る規制の見直しと業界自主基準化	石油天然ガス・金属鉱物資源機構	白川 裕
	6. 最近のLNG需給とエネルギーセキュリティー		
	<第2部>		
	パネルディスカッション：難しさはどうやって乗り越えるのか？		
	各講演者、前回までの講演者 東京大学 （モデレーター）エネルギー総合工学研究所		
		大岡 龍三 黒沢 厚志	
[総合司会]	荻本 和彦（東京大学）		

「家庭部門のCO ₂ 排出実態統計調査利用研究会」研究委員会シンポジウム（第13回ESIシンポジウム）			
（オンライン開催）			
[主 催]	エネルギー・資源学会「家庭部門のCO ₂ 排出実態統計調査利用研究会」研究委員会 東京大学生産技術研究所エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門（ESI）		
[共 催]	東京大学 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス（APET） 東京大学 エネルギー・資源フロンティアセンター（FR CER） 東京大学 生産技術研究所 持続型エネルギー・材料統合研究センター（IRCSEM） 東京大学 未来ビジョン研究センター（IFI）		
[日 時]	令和3年7月1日（木）13：00～17：10		
[参加者]	185名		
[テーマ]	「カーボンニュートラルに向けた家庭部門CO ₂ 排出実態統計調査の活用」		
[次 第]	開会挨拶	環境省	
	1. 家庭部門のCO ₂ 排出実態統計調査の概要と3年間の調査成果	(株)住環境計画研究所	鶴崎 敬大
	2. エネルギー・資源学会「家庭部門のCO ₂ 排出実態統計調査」利用研究会の紹介	東京大学	岩船 由美子
	3. 再生可能エネルギー利用を考慮した住宅エネルギー消費の6用途分解	熊本県立大学	田中 昭雄
	4. 機械学習とモデル解釈手法のSHAPを用いた光熱費の分析	電力中央研究所	西尾 健一郎
	5. 家庭の自家用車による輸送需要の将来推計	ENEOS(株)	星野 優子
	6. 家庭CO ₂ 統計を活用したエネルギー最終需要モデルの高度化と精度向上	大阪大学	下田 吉之
	7. GISによる統計データの可視化と地域レベルのエネルギー消費量の推定	電力中央研究所	上野 剛
	パネルディスカッション：家庭部門のカーボンニュートラルを進めるために何が必要か？		
	各講演者 (司会) 東京大学		
		岩船 由美子	
[総合司会]	岩船 由美子（東京大学）		

「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会2021年度第2回シンポジウム（第14回 ESIシンポジウム）			
（オンライン開催）			
[日 時]	令和3年9月27日（月）13：00～17：50		
[参加者]	301名		
[主 催]	エネルギー・資源学会「2050年に向けた日本のエネルギー需給」研究委員会 東京大学生産技術研究所エネルギーシステムインテグレーション社会連携研究部門（ESI）		
[共 催]	東京大学 先端電力エネルギー・環境技術教育研究アライアンス（APET） 東京大学 エネルギー・資源フロンティアセンター（FR CER） 東京大学 生産技術研究所 持続型エネルギー・材料統合研究センター（IRCSEM） 東京大学 未来ビジョン研究センター（IFI）		
[テーマ]	「2050年のエネルギーと社会：俯瞰的視点」		
[次 第]	趣旨説明と前回シンポジウムの振り返り	東京大学	荻本 和彦
	<第1部>		
	1. 2050年の脱炭素シナリオ：多様性と非欧米の視点	東京大学	杉山 昌広
	2. 2050年の脱炭素シナリオと脱炭素技術の有効性	日本エネルギー経済研究所	松尾 雄司
	3. 日本の経済成長とエネルギー生産性ー長期のエネルギー転換に向けた視点	慶應義塾大学	野村 浩二

4. 脱炭素困難部門での対策 早稲田大学 中垣 隆雄
 5. 材料選択という視点から一アルミニウムの天分を活かそう一 東京工業大学 熊井 真次
 6. エネルギー需要側技術・社会変化の展望と国際モデル比較プロジェクト 地球環境産業技術研究機構 秋元 圭吾
- <第2部>
 パネルディスカッション：忘れてはならない視点とは何か

各講演者、前回までの講演者
 東京大学 竹内 知哉
 (モデレーター) 東京大学 荻本 和彦

[総合司会] 荻本 和彦 (東京大学)

1-8 講習会

第1回講習会 (オンライン開催)

[日 時] 令和3年11月22日 (月) 13:00~17:40

[参加者] 79名

[テーマ] 「第6次エネルギー基本計画」

[次 第]

1. 第6次エネルギー基本計画について
2. エネルギー基本計画における省エネルギー
3. エネルギー基本計画における再生可能エネルギー
4. 我が国の原子力政策について (ビデオ講演)
5. エネルギー基本計画について 原子力エネルギーを中心に (ビデオ講演)
6. 「統合の限界運用コストを含む発電コスト評価」からのメッセージ
7. 2050年カーボンニュートラル分析
8. 第6次エネルギー基本計画の問題点 (ビデオ講演)

経済産業省 資源エネルギー庁 西田 光宏
 早稲田大学 田辺 新一
 東京大学 岩船 由美子
 内閣府 原子力委員会 上坂 充
 東京大学 山口 彰
 東京大学 荻本 和彦
 地球環境産業技術研究機構 秋元 圭吾
 国際大学 橘川 武郎

[司 会] 小宮山 涼一 (東京大学), 原 卓也 (豊田中央研究所)

1-9 研究会・見学会

第1回研究会 (見学会併催)

[日 時] 令和3年12月16日 (木) 12:30~17:30

[場 所] バイオマス発電所での大規模CO₂分離・回収実証設備 (BECCS) ((株)シグマパワー有明 三川発電所内)

[参加者] 29名

[テーマ] 「バイオマス発電所から排出されるCO₂を分離回収するBECCS対応設備の見学」

[コーディネーター] 黒沢 厚志 (エネルギー総合工学研究所)

1-10 エネルギー施設の災害・安全対策研究会

2021年度エネルギー施設の災害・安全対策研究会 (新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催延期)

[開催日] 令和4年2月21日 (月)~22日 (火)

[場 所] *福島第一原子力発電所

*福島第二原子力発電所

*東日本大震災・原子力災害伝承館

*東京電力廃炉資料館

*JAEA 檜葉モックアップセンター, とみおかアーカイブ・ミュージアム 等

[テーマ] 「福島第一, 第二原子力発電所の廃炉作業とエネルギー関連施設, および周辺地域の復旧・復興状況の見学」

[コーディネーター] 工藤 拓毅 (日本エネルギー経済研究所)

1-11 共催行事

立命館大学サステイナビリティ学研究センター主催『East Asian Low-Carbon Community』出版記念シンポジウム

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年7月27日 (火)

[主 催] 立命館大学サステイナビリティ学研究センター

第59回燃焼シンポジウム

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年11月22日 (月)~24日 (水)

[主 催] 日本燃焼学会

原子力総合シンポジウム2021

(オンライン開催)

[日 時] 令和4年1月17日 (月)

[主 催] 日本学術会議 総合工学委員会 原子力安全に関する分科会

1-12 企画実行委員会（茅賞・学生発表賞選考委員会）

第1回企画実行委員会 (オンライン開催)	第2回企画実行委員会 (オンライン開催)	第3回企画実行委員会 (オンライン開催)
[日 時] 令和3年5月17日 (月)	[日 時] 令和3年8月24日 (火)	[日 時] 令和3年10月14日 (木)
[出席者] 22名	[出席者] 23名	[出席者] 21名
[座 長] 下田 吉之	[座 長] 松橋 隆治	[座 長] 松橋 隆治
第4回企画実行委員会 (オンライン開催)	第5回企画実行委員会 (オンライン開催)	
[日 時] 令和3年12月7日 (火)	[日 時] 令和4年2月17日 (木)	
[出席者] 21名	[出席者] 19名	
[座 長] 松橋 隆治	[座 長] 松橋 隆治	

(注) 第2回、第5回企画実行委員会は、茅賞・学生発表賞選考委員会（座長：松橋 隆治）を併催。

2. 編集関係

2-1 会誌「エネルギー・資源」の刊行

通巻247号 (5月号)	令和3年5月10日刊行 (本文71頁)		
[特集] 2050年のエネルギー需給			
(1) 特集2050年のエネルギー需給 総論		東京大学	荻本 和彦
<需給・循環・制度>			
(2) 我が国の脱炭素社会検討における社会経済シナリオ		国立環境研究所 みずほりサーチ&テクノロジーズ	日比野 剛 平山 智樹
(3) 日本の長期気候政策の複数モデルによる評価		東京大学	杉山 昌広
(4) 日本の長期CO ₂ 削減とネガティブエミッションの役割		エネルギー総合工学研究所	黒沢 厚志
		"	加藤 悦史
(5) 電力部門の脱炭素化に向けて		日本エネルギー経済研究所	松尾 雄司
		東京大学	荻本 和彦
(6) ニューノーマルによる脱炭素型まちづくりとは? ~次世代型ライフスタイルの変容~		茨城大学	吉田友紀子
		国立環境研究所	平野勇二郎
(7) 気候変動、持続可能性と将来社会展望		埼玉大学	外岡 豊
(8) ネット・ゼロ：欧米の取り組みからの示唆		東京大学	杉山 昌広
		NewClimate Institute	倉持 壮
		東京大学	高村ゆかり
<資源・供給・ネットワーク>			
(9) 気象データと太陽光発電データセットの構築		東京大学	隈 健一
		産業技術総合研究所	大竹 秀明
(10) 太陽光及び風力発電の将来ポテンシャル		産業技術総合研究所	大関 崇
		"	嶋田 進
(11) 2050年に向けた再生可能炭素源としてのバイオマス		広島大学	松村 幸彦
(12) 原子力発電の未来をマーケティングする ~経済価値の視点から~		日本エネルギー経済研究所	柴田 智文
		"	村上 朋子
		"	木村 謙仁
(13) 脱炭素エネルギーシステムにおける水素と合成燃料の役割		地球環境産業技術研究機構	秋元 圭吾
		"	佐野 史典
		"	金星 春夫
(14) 脱炭素化・レジリエンス強化に向けた電力ネットワーク形成の方向性		東京大学	小宮山涼一
<需要>			
(15) 需要側の気候変動対策としての電化とその課題		電力中央研究所	西尾健一郎
(16) 脱炭素化へ向けた電気自動車の貢献		日産自動車	松本 幹雄
(17) 民生部門の脱炭素化へ向けた課題		大阪大学	下田 吉之
		"	山口 容平
(18) 産業部門の脱炭素化へ向けた課題		三菱総合研究所	井上 裕史
(19) 需要家側資源活用の可能性		東京大学	岩船由美子
[論文要旨掲載件数]			
研究論文9件			
通巻248号 (7月号)	令和3年7月10日刊行 (本文79頁)		
[特集] 温暖化対策と電力系統安定化に寄与する水力発電			
(1) 脱炭素社会にむけた水力発電システムの役割		早稲田大学	宮川 和芳
(2) 大型水力発電システムの最新技術		日立三菱水力	谷 清人
		"	田村 悠太
(3) 大型水力発電システムの運用技術		電源開発	笠松 隼樹
		"	堀川 祥吾
(4) 揚水発電技術		東芝エネルギーシステムズ	森 淳二

- (5) 再エネ大量導入下の揚水発電の運用とポテンシャル
- (6) 小水力・マイクロ水力発電の最新技術
- (7) 中小水力発電の導入促進に向けた取組み

九州電力送配電	緒方 和彦
信州大学	飯尾昭一郎
早稲田大学	宮川 和芳
新エネルギー財団	組橋 圭介
〃	橋本 雅一
〃	齊藤 公道

[論文要旨掲載件数]

研究論文10件、技術論文1件

通巻249号 (9月号)

令和3年9月10日刊行 (本文65頁)

[特集] アンモニア合成の新展開

- (1) 特集にあたって
- (2) ケミカルリサイクルを用いたH.B.法によるアンモニア合成
- (3) エレクトライドを用いたアンモニア合成触媒
- (4) 溶融塩を用いた常圧アンモニア電解合成
- (5) Ru触媒, 水素透過膜, リン酸塩電解質を用いた窒素と水からのアンモニア電解合成
- (6) 電界印加した触媒上でのアンモニア合成法の研究
- (7) 光触媒による水と窒素ガスからのアンモニア合成
- (8) リチウムの機能性を利用した常圧アンモニア合成技術の研究

編集実行委員/三菱電機	光田 憲朗
昭和電工	栗山 常吉
東京工業大学	細野 秀雄
アイ' エムセップ	伊藤 靖彦
福岡大学	久保田 純
早稲田大学	関根 泰
大阪大学	白石 康浩
〃	平井 隆之
広島大学	宮岡 裕樹
〃	新里 恵多

[論文要旨掲載件数]

研究論文6件、技術論文2件

通巻250号 (11月号)

令和3年11月10日刊行 (本文68頁)

[特集] エネルギー分野におけるデジタル技術活用① (供給サイド)

- (1) 特集にあたって
- (2) エネルギー分野におけるデジタル技術の活用
- (3) 火力発電所における巡視点検自動化システムの開発について
- (4) 再生可能エネルギー発電出力の推定・予測技術
- (5) 日本の電力市場におけるアルゴリズム取引の実現可能性
- (6) ブロックチェーン技術は再エネトラッキング, 電力証書発行・取引に有効か?

編集実行委員/関西電力	西 順也
KPMGコンサルティング	巽 直樹
関西電力	花登 弘和
〃	五十嵐一真
〃	松山 瑛吾
気象工学研究所	高田 望
エネルギー経済社会研究所	松尾 豪
〃	志賀 智之
L03 Energy	大串 康彦

[論文要旨掲載件数]

研究論文8件、技術論文1件

通巻251号 (1月号)

令和4年1月10日刊行 (本文76頁)

[特集] エネルギー分野におけるデジタル技術活用② (需要サイド)

- (1) 特集にあたって
- (2) AIによるエネルギー需要予測
- (3) 太陽光発電の発電予測の最近動向
- (4) デジタル技術を用いた家庭用蓄電池
- (5) MBD活用デジタル制御の太陽光発電・水素製造システム
- (6) HEMSによるエネルギー需要マネジメント
- (7) スマートビル実現にBEMSが抱える課題と今後の期待

東京大学	吉田 好邦
パナソニック	内藤 康幸
東芝	進 博正
東芝エネルギーシステムズ	志賀 慶明
〃	大場 健史
産業技術総合研究所	高松 尚宏
〃	大竹 秀明
〃	大関 崇
Looop	渡邊裕美子
NTTエレクトロニクスクロステクノロジー	中島 善康
名古屋大学	米澤 遊
宮崎大学	太田 靖之
〃	西岡 賢佑
ミサワホーム総合研究所	飯島 雅人
東京大学	宮田 翔平
〃	赤司 泰義

[新春座談会] 2050年カーボンニュートラルの実現に向けて

国立環境研究所	亀山 康子
日本エネルギー経済研究所	工藤 拓毅
エネルギー総合工学研究所	黒沢 厚志
電力中央研究所	永田 真幸
(司会) 筑波大学	岡島 敬一

[論文要旨掲載件数]

研究論文3件

[特集] 持続可能なまちづくり

(1) 特集にあたって

(2) 脱炭素化に向けた地方公共団体の取組について

(3) 自治体新電力の意義と課題

(4) 能勢・豊能町におけるエネルギーを軸としたまちづくりへの挑戦

(5) 生きるを楽しむ西粟倉村の持続可能なまちづくり

(6) 進化し続ける街「みなとみらい21」

(7) ネクステムズが宮古島で目指すカーボンニュートラルへの道

(8) 電力と交通のセクターカップリングによる地域エネルギーマネジメント
—宇都宮市での取組を中心に—

早稲田大学	鷺津	明由
CDP Worldwide-Japan	高瀬	香絵
環境省	澁谷	潤
ローカルグッド創成支援機構	稲垣	憲治
能勢・豊能まちづくり	榎原	友樹
エックス都市研究所	河野	有吾
横浜みなとみらい21	古木	淳
ネクステムズ	比嘉	直人
早稲田大学	石井	英雄
〃	藤本	悠
〃	光岡	正隆
〃	林	泰弘

[論文概要掲載件数]

研究論文3件

2-2 編集実行委員会 (査読委員会、論文賞選考委員会)

第1回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年4月13日 (火)

[出席者] 25名

[座 長] 藤井 康正

第2回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年6月15日 (火)

[出席者] 26名

[座 長] 藤井 康正

第3回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年8月17日 (火)

[出席者] 23名

[座 長] 藤井 康正

第4回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年10月12日 (火)

[出席者] 25名

[座 長] 藤井 康正

第5回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和3年12月13日 (月)

[出席者] 21名

[座 長] 藤井 康正

第6回編集実行委員会

(オンライン開催)

[日 時] 令和4年2月16日 (水)

[出席者] 20名

[座 長] 藤井 康正

(注1) 編集実行委員会の前半に査読委員会 (座長: 永田 豊) を毎回開催。

(注2) 第3回、第5回、第6回編集実行委員会は、論文賞選考委員会 (座長: 岡島 敬一) を併催。

3. 総務関係

3-1 表彰

令和3年度表彰式

(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止)

第10回学会賞

該当なし

第10回学会貢献賞 (表彰1件)

* (業績) 「長年にわたる編集実行委員の活動」

(受賞者) 吉田 英生 (京都大学)

第9回茅賞 (表彰1件)

* (業績) 「家庭CO₂統計を用いた機器保有状況の予測手法に関する検証」

(受賞者) 向井 登志広 (電力中央研究所)

第9回学生発表賞 (表彰4件)

* (業績) 「事業所における大容量太陽光発電の有効活用に対する電気自動車の有用性」

(受賞者) Helindu Cumaratunga (名古屋大学)

* (業績) 「地方への水素インフラ導入効果に関する検討」

(受賞者) 神田 直輝 (筑波大学)

* (業績) 「家庭部門と電力部門のエネルギー需給構造を詳細化した

技術選択モデルによる送配電網の維持・運用費用に関する分析」

(受賞者) 神戸 健太郎 (東京大学)

* (業績) 「動学的他部門エネルギー経済モデルを用いた太陽光発電産業のリユース

及びリサイクルを踏まえた構造変化による社会的影響評価」

(受賞者) 白川 稔 (東京大学)

第17回論文賞（表彰1件）

- *（業績）「エネルギーシステム技術選択モデルによるGHG80%削減分析：
気象条件が技術選択やGHG削減費用に与える影響」
（受賞者）川上 恭章、松尾 雄司（日本エネルギー経済研究所）

3-2 総務委員会

第1回総務委員会

（オンライン開催）

〔日 時〕 令和3年4月22日（木）

〔出席者〕 8名

〔座 長〕 西田 篤史

第2回総務委員会

（オンライン開催）

〔日 時〕 令和3年9月15日（水）

〔出席者〕 8名

〔座 長〕 藤岡 直人

第3回総務委員会

（オンライン開催）

〔日 時〕 令和4年2月24日（木）

〔出席者〕 11名

〔座 長〕 藤岡 直人

以上